

ときめき インタビュー



…プロフィール…

1986年9月8日生まれ。草加市出身。1歳のとき越谷市に転入。宮本小、中央中を経て、平成14年に21期生として日本中央競馬会（JRA）競馬学校に入学。平成17年3月5日に杉浦宏昭厩舎所属でデビュー。初勝利は3月13日。同年に民放競馬記者クラブ賞（関東新人騎手賞）を受賞。平成20年7月からフリーに。昨年3月14日に100勝達成。四人兄弟の次男。中学時代は剣道部に所属し、初段の腕前。

父に託された夢が自身の夢に

大野拓弥さんが騎手を志したきっかけは、小学校6年生から通い始めた乗馬クラブでした。「父が馬好きで、騎手になりたかったという話をよく聞きました。それで、乗馬をやらせたのだそうです」。もともと動物が好きだった大野さん。「馬への興味がわいてきて、自分でも騎手になりたいと思うようになりまして」。

週末や休日、成田にある乗馬クラブへ。「クラブでは、馬とコミュニケーションをとり、コントロールする技術を習いました」。

競馬学校への入学は超難関

中学卒業後の進路として、騎手を養成するJRA競馬学校への入学を目指しました。「競馬学校の合格者は毎年10人程度で超難関。受験した年は、約30倍の倍率でした。受験では、運動機能のテストや健康診断のほかに、将来どれくらい身長が伸びるかを調べる骨の検査などもありました」。

当時の年齢区分による体重制限は43kg。体重は、減量して40kgまで落とし、ランニングなどをして持久

力を向上させるようにしました」。

また、視力は、裸眼で左右とも0.8以上が必要でした。「ゲームなどはせず、トレーニングに励んでいました。息抜きには、宮本小前の用水でザリガニ釣りをしていました。越谷は、人口30万人を超える都市なのに、まだ自然が残っているところがいいですね」。

「まさか、受かると思っていなかった」という競馬学校に見事に合格。3年間の全寮制での騎手課程を終え、2005年3月に騎手としてデビューしました。

デビュー戦は、スタート直後に馬がつかまずいて落馬し、競走中止になりました。「ホロ苦いデビュー戦でしたが、調教師の方が優しく迎えてくださったことを覚えています」。翌週の3月13日には初勝利。その年は11勝をあげ、民放競馬記者クラブ賞を受賞しました。

奥様の手料理で体調は万全

騎手の生活は早起きで、競馬学校時代と同じように、朝5時には活動を開始します。「平日は馬の調教につき合ったり、トレーニングをしたり……。カラダの筋力や持久力を鍛えながら、でも、筋肉



をつけ過ぎると体重が増えてしまうので、体調管理には気を使いますね。食生活は野菜中心です」。今年2月に結婚。結婚後は、奥様が食事の管理もしてくるよう

どんな馬に乗っても能力を最大限に発揮させられる騎手になりたい

前進あるのみ 夢に向かって頑張って！

「勝てない時期が続くこともあり、落ち込むこともしょっちゅうです。そんなときは、馬と接したり、映画を見に行くなどして、気持ちを切り替えます。好きな言葉は、「念ずれば花開く」。越谷市の子どもたちに「前進あるのみ。いろいろ経験して、夢に向かって頑張って」というメッセージをいただきました。

目標としているのは横山典弘騎手。「馬の気持ちはわかり、馬のさばき方がいちばんうまい。その結果、馬を速く走らせることができるのです」。大野さんも背中にまたがっただけで馬のコンディションがわかるそうです。「レース前、馬の特徴はVTRでチェック。当日は、ウォームアップで、状態を見極め、レースを組み立てます」。大野さんの目標は、「まずは、年間30勝以上で、進路妨害による減点が少ない選手に贈られるフェアプレー賞の獲得。そして、もちろん重賞レースでの勝利です」。今後の活躍に注目です。



騎手 おおの たくや 大野 拓弥 さん

騎手になって6年目を迎えた大野拓弥さん。昨年3月に区切りとなる100勝目をあげ、今年も年男で、2月にご結婚をされたばかり。期する思いも大きいのでは？ 茨城県にある美浦トレーニング・センターを訪ね、お話を伺いました。